

◆ 新収蔵資料紹介（令和6年度4月）展示解説シート ◆

けんいんしゃ ふなびきかねと（てつもん）
郷土歌壇の牽引者・船曳鐵門、晩春・初夏を詠む

会期：令和6年4月2日(火)～29日(月・祝)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

この度公開する「船曳鐵門和歌短冊二枚」(資料番号A2023-013)は、東京都在住の古美術品蒐集家が近隣の古美術店より入手したもので、令和5年11月6日付けで本市が寄贈を受けました。

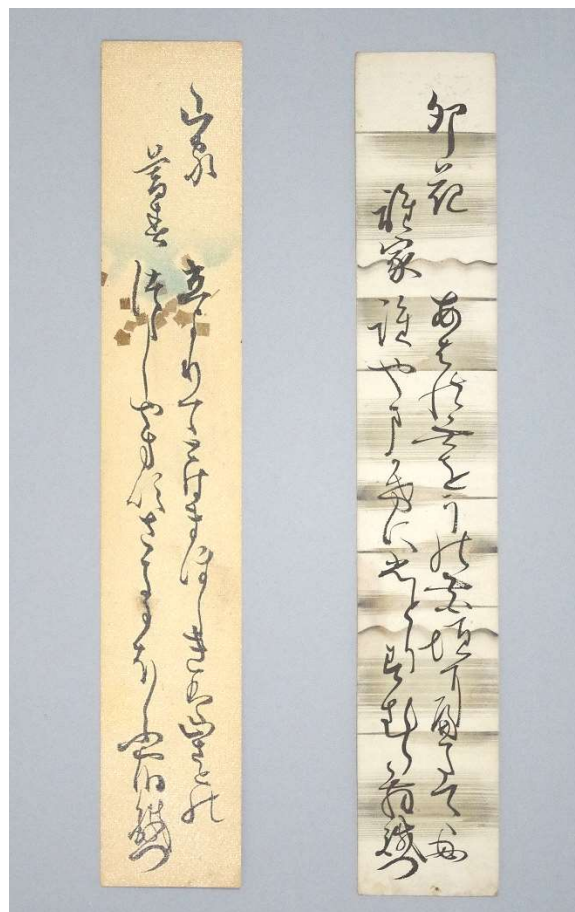
和歌の作者である船曳鐵門(1823～1895)は、江戸時代の久留米藩の藩校講師を務め、明治時代には高良神社(現・高良大社)の宮司に就任し、史家や歌人としても活躍しました。作品は100年以上前のちょうど今頃、晩春と初夏に詠まれたものです。

●No.1 和歌「山家暮春」(写真・左)

立ちよ^(里)りて とはまほしきは 山^(里)ざとの
つらつ^(列々)らやま吹^(咲) きき^(匂)にほふ宿

●No.2 和歌「如花誰家」(写真・右)

あはれむ^(橋)を うの花垣^(御)に へたて^(隔)ても
誰^(山影)やまかけに ひとり^(住)すむらむ



【 船曳鐵門年表 】

和暦	西暦	事柄
文政6	1823	伊勢御祖神社祠官船曳大枝の次男として、三潯郡大石村(現・久留米市大石町)に生まれる 幼少より、国学や和歌、漢学を学ぶ 長崎で歌文、江戸で国学を研究する
慶應年間	1865-8	久留米藩の藩校明善堂の講師に任ぜられる 大石村の自宅に塾を開き、国学や和歌を指導する
慶應4	1868	藩の権力争いに巻き込まれ、揚屋入り(土分の獄)となる
明治6	1873	香椎宮(現・福岡市東区)宮司に任ぜられる
明治7	1874	高良神社(現・高良大社)権宮司に任ぜられる
明治17	1884	高良神社宮司に昇進する
明治28	1895	この間、福岡県から筑後国史編輯等を命ぜられる。また、筑後一円に鐵門派の和歌が栄える 2月10日没。享年73